

地層処分における国際的動向 - 国際研修センター (ITC) 構想とその背景 -

A current movement on the study of geological disposal - Plan of the International Training Centre and related activities

水谷 伸治郎[1], 市川 康明[2], Neil Chapman[3], 渡辺 邦夫[4], 佐久間 秀樹[5], 吉田 英一[6]

Shinjiro Mizutani[1], Yasuaki Ichikawa[2], Neil Chapman[3], Kunio Watanabe[4], Hideki Sakuma[5], Hidekazu Yoshida[6]

[1] 日福大・情報社会, [2] 名大・環境・都市, [3] シェフィールド大学・理・地球, [4] 埼玉大・理工・生態環境システム, [5] サイクル機構, [6] 名大博物館

[1] Soc. Information Sci., Nihon Fukushi Univ., [2] Environmental Eng, Nagoya Univ, [3] Earth and Planetary Science, Sheffield Univ., [4] Environmental System, Saitama Univ, [5] JNC, [6] NUM

高レベル放射性廃棄物 (HLW) の処分に関係する研究を中心にして、現在、International Training Centre (ITC) の設立が計画されている。HLWの地層処分の研究は、国際的に新しい知見や技術を交換・集約し、幾世代にもわたる長期的な方策を常に考えながら、進められなければならない。さらに、それにかかわる最先端の専門的知識と特殊な技術は、これから何世代にもわたって伝えられ、受け継がれていかなばならない。

ITCはこの研究分野の専門家、および、この研究に関係する周辺分野の研究者や技術者の育成を主たる目的とし、国際的な・独立した・非営利の・分かりやすい組織形体をもった連携の場として、国際研修センター (association, Verein) の仮称で発足する。大学、研究所、企業などから指導者を招き、大学院生や若い研究者に対して、地層処分にかかわる基礎的知識と技術を教える。その教育計画には、現地研修や実験的研究、場合によっては、長期にわたる継続観測などが含まれる。

現在、この計画に積極的に参加しているのは、スイス (連邦政府, Nagra, Univ. Bern), 日本 (埼玉大, 名古屋大), イギリス (Sheffield Univ.) などである。実地教育の場としてはスイスが予定され、Grimsel の実験場などが具体的な例として考えられている。この秋 (2003年10-11月) に計画されている3週間にわたる the inaugural course は、IAEA (国際原子力機関) ほかの共済によるもので、主題は The Fundamentals of Geological Disposal and the Theory and Practice of Underground Rock Facilities であり、Grimsel および Innerkirchen において実施される。

このITC設立計画に関連して、2002年11月29日、東京でワークショップが開かれた。以降、Pilot Group の設立と運営規約の草案作成などを目的として世話人会 (Neil Chapman ほか Nagra より3名、および、佐久間秀樹) は活動をはじめており、ニュース・レター (ITC News, No.1: Jan. 2003) が発行されている。